

BUDŌ

NEWS

今月のニュース

皇后盃 第67回全日本なぎなた選手権大会
第22回全日本男子なぎなた選手権大会



決勝＝ツキで攻める林田（左）

第71回天皇杯
全日本相撲選手権大会



上位入賞した選手たち

2022年
少林寺拳法全国大会



男女の拳士による組演武

皇后盃

第67回全日本なぎなた選手権大会

林田智笑^(大阪)が初の5連覇



皇后盃第67回全日本なぎなた選手権大会（主催Ⅱ全日本なぎなた連盟）が、昨年12月4日、兵庫県姫路市の兵庫県立武道館で開催された。昨年は新型コロナウイルスの影響で無観客での開催だったが、今大会は新型コロナウイルス感染防止対策を徹底した上で3年ぶりに観客を入れての開催となった。

大会には全国各地の予選を勝ち上がった49名に前回大会優勝者を加えた計50名が出場し、トーナメント方式で争われた。

決勝は史上初の5連覇を目指す林田智笑^{ちみう}（大阪）と本大会で4回の優勝経験がある安喰愛^{あじき}（熊本）の新旧女王対決となった。試合は判定の末に林田が勝利し、見事5連覇を達成した。

◇
試合は全日本なぎなた連盟競技規定ならびに審判規定に基づいて行われた。試合時間5分、3本勝負で、時間内に決着がつかない場合は判定で勝者を決めた（決勝のみ3分間の延長戦を行い、勝敗が決しない場合は旗判定を実施）。

▽第1試合場

史上初の5連覇がかかる林田に注目が集まった。初戦となる2回戦はメン、スネを連取して田口真耶（鹿児島）を下す。和田うらら（東京）との3回戦ではメンを奪われるがコテとスネを奪って勝利する。準々決勝では第60・61回大会優勝の山本千代（和歌山）と対戦。先にスネを奪

われる苦しい展開となるが、その後攻め続け、試合終盤にコテを返して判定に持ち込み辛くも勝利。苦しみながらも準決勝に進出した。

反対ブロックは3回戦で前回3位の林田葉純（大阪）と2019年に



準々決勝＝林田（右）が山本からコテを奪う

行われた第7回世界選手権大会の団体戦で優勝した志藤綾香（山梨）が対戦。判定で志藤が勝利する。準々決勝は志藤と江越由季（佐賀）が対戦。この試合も共に有効打がなく、判定で江越が勝ち、準決勝に進出した。

▽第2試合場

第53・56・58回大会優勝の安喰愛と前回大会4位の服部ゆかり（茨城）が準々決勝で対戦。3回戦まですべて2本勝ちの安喰がスネを奪って勝利し、準決勝に進出した。

反対ブロックは前回2位の佐藤あき子（熊本）と北希織（東京）が準々決勝で対戦。佐藤が判定で北を破り、2年連続で準決勝に進出した。



準々決勝＝メンを打つ佐藤（左）

準決勝①

林田 智笑 コー 江越 由季

第1試合は林田と江越による教員対決となった。

試合開始から積極的にメンを攻める江越に対し、林田はスネ、コテを狙っていく。試合中盤、林田は江越の一瞬の隙をつき、コテを決めて先に1本奪う。林田はその後も落ち着いて試合を進めて江越の反撃を許さず1本勝ち。林田が5連覇に向け、決勝進出を果たした。



準決勝①＝コテを打つ林田（左）

準決勝②

安喰 愛 ツー 佐藤 あき子

過去4回優勝し、第7回世界選手権大会個人戦優勝者の安喰と第51回大会で優勝し、前回2位の佐藤による対戦となった。

開始1分30秒を過ぎたところで安喰がツキを決めて先に1本を奪う。取り返したい佐藤は積極的に前に出て技を繰り出すが、そのまま試合終了。安喰が決勝に進出した。



準決勝②＝安喰（左）が佐藤にツキを決めて1本勝ちを収める

3位決定戦

佐藤あき子
(熊本)

判—— 江越 由季
(佐賀)

試合開始から江越が積極的に攻める。メン、スネと次々に技を繰り出す。佐藤はしっかりと受けて技を返す。その後は互いに技を繰り出し、互角の展開が続く。結局、両者有効打がないまま試合終了。判定の結果、佐藤が勝利した。



メンを打つ佐藤 (右)



スネを打つ佐藤 (右)



メンをねらう江越 (左)

日本武道館の単行本



剣道の文化誌

明治大学教授 長尾 進 著

四六判・上製・480項・定価2,640円

本書では剣道の持つ文化としての多様な面を、時代を追いつながら、わかりやすく紹介する。剣道を愛好する方には剣道を改めて見直すきっかけとして、剣道をあまりご存知ない方には剣道という日本文化の成り立ちを知るガイドとして、ぜひ一読を。



剣道 その歴史と技法

埼玉大学名誉教授
大保木輝雄 著

四六判・上製・516項・定価2,640円

本書は戦国末期から江戸時代初期を起点に、今日に至るまでの剣道の歴史的発展の経緯を示した。戦国期以前の剣術の有り様を認識した上で改めて各時代の流れに沿った剣道史を考えてみたいという筆者の思いを実現すべく、連載終了後5年のときを経て1冊に単行本化。



合気道 その歴史と技法

合気道道主 植芝守央 著

四六判・上製・362項・定価2,640円

世界140の国と地域、国内2,400の道場・団体で愛好される合気道。開祖・植芝盛平翁の生涯、植芝吉祥丸二代道主による普及・振興、さらなる発展に繋げた現道主による取り組み。その歴史の中で培われ伝えられてきた合気道の理念、それを体現する稽古法、基本的な技法の解説……合気道の全てを網羅した決定版。

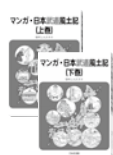


空手道 その歴史と技法

小山正辰・和田光二・
嘉手苅徹 著

四六判・上製・548項・定価2,640円

空手は沖縄で発祥し、日本本土に伝承され、今や世界のKARATEとなった。その歴史と技法を、那覇系剛柔流の小山正辰氏、首里系松濤館の和田光二氏、沖縄空手研究の第一人者である嘉手苅徹氏の共同執筆で重層的に紐解く。嘉手苅氏が発見した剛柔流の開祖・宮城長順の最新の事実、小山・和田の両世界チャンピオンのエピソードなども満載。空手の真髄に迫る白眉の一冊。



マンガ・日本武道風土記

漫画家・別府大学客員教授
田代しんたろう 著

B5判・248項・定価1,100円

全国の「武道ゆかりの地」を実際に訪ねて、ペンとスケッチブックを片手に徹底取材。地元関係者や施設の学芸員とのやりとり、その土地の成り立ちをわかりやすくマンガで紹介。多数の資料をもとに丹念に描いた当時の風景も魅力の一つ。マンガの世界で日本各地をめぐるみては。



死ぬまで弓道

弓道教士七段 小牧佳世 著

四六判・上製・342頁・定価2,640円

競技中に急性大動脈解離に倒れた筆者は奇跡的な生還を果たす。その8カ月後に弓道を再開し、わずか2年後に皇后盃で十射皆中、優勝を果たした。本書では激動の自伝を記し、弓のあり方や「早気」など弓道家の誰もが陥る課題などを模索する。死の淵を覗き、現在も全身全霊で弓を引き続ける筆者だからこそ記せた弓道伝記かつエッセイ。



学校武道の歴史を辿る

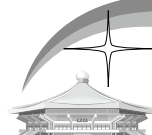
筑波大学名誉教授
藤堂良明 著

四六判・上製・354項・定価2,640円

明治維新を迎え、武術は衰退したが、近代化の過程で武道が「人間形成の道」として学校制度の中に組み込まれ、発展した。太平洋戦争後に武道は全面禁止となるが、それを乗り越え、「格技」として復活。平成24年度には「中学校武道必修化」が実現した。学校武道の歴史を丹念に辿り、今後のあり方を探る。

ご注文・お問い合わせ

(公財)日本武道館 月刊「武道」編集部
〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
TEL 03-3216-5147 FAX 03-3216-5158
<https://www.nipponbudokan.or.jp>



決 勝

林田 智笑
(大阪)

判 —

安喰 愛
(島根)

接戦を勝ち上がってきた女王・林田と安定した戦いぶりで5度目の頂点を目指す安喰による実力者同士の対決となった。

試合は互いに慎重な立ち上がりとなるが徐々に林田がコテ、メン、スネと技を繰り出し、試合を優位に進める。対する安喰も得意のツキを中心に応戦する。結局、両者有効打のないまま時間となり、勝負は3分間の延長戦に持ち越された。

延長戦に入ると安喰は積極的に技を出し、途中安喰の放ったコテに旗が1本上がる場面も。しかし林田も負けじと攻め返し、互角の戦いが繰り広げられ、勝負は判定に委ねられた。判定は林田に2本、安喰に1本の旗が上がって林田の勝利。林田が8分間にわたる接戦を制し、見事5連覇を達成した。



対峙する両者



メンを放つ林田 (左)



鋭いツキを繰り出す安喰 (右)



皇后盃を授与される林田 (左)



判定2-1で林田 (右) が勝利

挑戦者精神で掴んだ5連覇

●優勝Ⅱ林田智笑選手・五段（関西福祉科学大学高教員）



林田 智笑
（はやしだ・ちえみ）

1995年生まれ、大阪府剣道開始、3歳から大阪市内の剣道道場に通い、小学生から中学生まで、関西地区の大会で優勝を重ね、高校時代には全日本選手権大会で優勝し、大学時代にも優勝し、現在は関西福祉科学大学高教員として活躍中。

——優勝した感想を。

「優勝の実感は全然なく、いまだに優勝できたのかなあという気持ちです」

——史上初の5連覇となります。

「大会前、大阪の先生方に『過去のこととは忘れてチャレンジャーとして思い切ってやっておいで』と送り出していただったので、チャレンジャー精神で挑みました。ですので、5連覇するという意識はありませんでした」

——この結果をどなたに報告しますか。

「まずはご指導いただいた先生

方、そしてお世話になった全ての方々にお伝えしたいと思います」

——準々決勝では優勝経験のある

山本選手と対戦。先にスネを決められ、厳しい試合となりました。

「前の試合（3回戦）もメンを詰められて苦しかったので、今日は厳しい試合の連続でした。準々決勝の山本先生は私が高校生の頃からご指導いただいているので、自分のすべてを出し切ろうと思って試合に臨みました。試合中は、ただただ『絶対勝つ』と思って、必死にやりました」

——決勝は過去4回優勝している

安喰選手と対戦となりました。

「安喰先輩は準決勝までツキをかなり決めていたので、ツキ技を警戒していました。試合中は相手の得意な技を出させないように意識して戦いました」

——5連覇となりました。強さの秘訣を教えてください。

「大阪の先生方が自分の時間を割いて教えてくださったので、それがこの結果につながっていると思います」

——練習環境などで新型コロナウイルスの影響はありましたか。

「大阪府内では練習の制限はないんですが、他県の方とは練習できませんでした。もともと他県の方と練習したかったとは思いますが」

——次は6連覇になります。

「連覇のことは意識せず、気持ちを切り替え、またゼロからやっていきたいと思っています。今回は反省するところがたくさんあったので、それを少しでも改善して来年の大会に臨めるようにしたいと思います」

○準優勝Ⅱ安喰愛選手・錬士



（決勝で敗れてしまい）悔しい気持ちはありますが、練習してきたことは出ることができたと思います。（決勝は）互いに良いところを打っていたので、（判定が）どっちになるかはわからなかったんですが、どちらになっても全日本の舞台で良い試合ができたと思います。8年後には島根で国体が開催されるので、後輩を育成しながら自分も頑張りたいと思います。

○第3位Ⅱ佐藤あき子選手・錬士



この大会は常に『挑戦』という気持ちで出場するので、まず初戦突破を目指して頑張りました。（準決勝で）相手のツキはかなり警戒していたのですが、それでも決められたのは自分

に隙があったからだと思います。大会に出ると自分の足りない部分を確認できるので、今日も課題・反省点が見つかりました。

皇后盃 第67回全日本なぎなた選手権大会

称号・段位	選出	氏名	氏名	選出	称号・段位
五段 (大阪)	林田 智笑	メ'ス''	中島 沙織 (東京)	五段	判
四段 (千葉)	横山 史子	ゴ'ス''	林 香予子 (愛知)	五段	判
四段 (鹿児島)	田口 真耶	判	金岡 智子 (大阪)	五段	メ'一本勝
五段 (東京)	和田うらら	ゴ'一本勝	服部ゆかり (茨城)	五段	メ'ス''
五段 (山形)	大西 真子	判	早田 朱美 (富山)	五段	不戦勝
五段 (宮城)	櫻田 祐子	メ''	宮田 京香 (香川)	四段	ス'一本勝
四段 (大分)	北嶋 愛実	ゴ'一本勝	正田かな (栃木)	四段	ゴ'一本勝
錬士 (秋田)	竹村 紀子	ス'ス''	菊地 映美 (神奈川)	四段	判
錬士 (広島)	山根 園子	メ'一本勝	浅沼 友貴 (兵庫)	五段	判
錬士 (和歌山)	山本 千代	メ'一本勝	大谷嘉奈子 (千葉)	錬士	メ'ス''
四段 (神奈川)	高橋美菜代	メ'一本勝	安喰 愛 (島根)	錬士	メ'ス''
四段 (沖縄)	上地 星菜	判	前田あかね (奈良)	五段	メ'コ
五段 (岐阜)	藤井 香代	判	榎本 明理 (新潟)	錬士	メ'ツ''
錬士 (高知)	橋本 美江	判	北村由美子 (滋賀)	五段	判
五段 (群馬)	三越 孝子	不戦勝	大竹 葵 (福島)	四段	不戦勝
五段 (山梨)	志藤 綾香	メ'一本勝	杉野 圭 (三重)	五段	メ'ス''
錬士 (兵庫)	清水真由美	ゴ'ス''	北 希織 (東京)	四段	判
五段 (大阪)	林田 葉純	メ'メ''	宮森 洋子 (宮崎)	五段	メ'ス''
五段 (長野)	戸田 千恵	判	鳥飼 明子 (鳥取)	錬士	判
五段 (岩手)	大澤 彩	判	増田 佳代 (福岡)	四段	判
四段 (佐賀)	江越 由季	ス'一本勝	岡本 浩子 (埼玉)	五段	メ'メ''
錬士 (岡山)	水田 孝子	不戦勝	仕入 愛梨 (福井)	四段	判
五段 (埼玉)	高瀬 怜	判	渥美久二子 (静岡)	錬士	判
四段 (青森)	近村奈緒子	判	藤岡 葉月 (石川)	四段	不戦勝
五段 (京都)	宮崎 綾	判	佐藤あき子 (熊本)	錬士	判

優勝・林田智笑

準優勝・安喰愛

3位決定戦
佐藤あき子

江越由季 佐藤あき子

※表のカタカナ表記は決まり手、その右肩の「」（アポストロフィ）の数は決まり手の順番を表す。

公開演武



天道流薙刀術
受太刀・木村恭子 (左) / 仕太刀・針本佳世子



直心影流薙刀術
打太刀・野崎房江 (左) / 仕太刀・関根恵兒



全日本なぎなたの形
打・葉山奈緒美 (右) / 仕・島名きよみ

第22回全日本男子なぎなた選手権大会

増田道仁(兵庫)が4連覇達成



決勝＝増田（左）が一瞬早くメンを決める

第22回全日本男子なぎなた選手権大会が昨年12月3日、兵庫県姫路市の兵庫県立武道館で開催された。

大会には各都道府県（2名以内）と大学（同一大学からは2名以内）から56名（欠場者5名含む）が出場、トーナメント方式で争われた。

4連覇を目指す増田道仁（兵庫）と昨年2位の山下大輝（奈良）が2年連続して決勝戦で対戦。増田がメンを決めて一本勝ちし、史上初の4連覇を達成した。



試合は全日本なぎなた連盟競技規定ならびに審判規定に基づいて行われた。試合時間5分、3本勝負で、時間内に決着がつかない場合は判定で勝者を決めた（決勝のみ3分間の延長戦を行い、勝敗が決しない場合は旗判定を実施）。

▽第1試合場

4連覇を目指す増田は初戦となる2回戦で木村光宏（香川）と対戦。メン、スネを連取して幸先良いスタートを切る。続く3回戦では第16回大会で優勝している左橋五月（愛知）と対戦。有効打はなかったが判

定で勝利した。準々決勝では中村眞人（奈良）にメン、スネを決めて準決勝に進出した。

反対ブロックからは2019年に行われた第7回世界選手権大会の団体戦で優勝した小橋渉（大阪）が3回戦で前回4位の榊原悠太（国際武道大）を破って勝ち上がった。

▽第2試合場

前回3位の増田良明（兵庫）は3回戦で入江晃太（関西大）にスネ、メンを奪われて敗退。入江は準々決勝で齋藤俊慧（福島）を判定の末に破り、初の準決勝に進出した。

反対ブロックからは前回2位の山下大輝が田中誠（岐阜）、久保亘（京都）、小島綾起（大阪）を退け、順当に準決勝に進出した。



準々決勝＝増田道仁（右）がメンを決める

準決勝①

増田 道仁 判——小橋 渉

4連覇を目指す王者・増田とベテラン小橋の対戦。互いに技を繰り出す、なかなか1本が奪えない。開始1分50秒過ぎには小橋がなぎなたを落とし、1回目の反則を受ける。その後も有効打突がないまま試合終了。判定の結果、増田が勝利し、4連覇に王手をかけた。

準決勝②

山下 大輝 判——入江 晃太

2年連続の決勝進出を目指す山下と2回目の出場で勝ち上がってきた入江の対戦。序盤は互角の戦いを繰り広げるが、徐々に山下のペースと



準決勝①＝飛び跳ねてスネをかわしメンを打つ増田（右）

なり、入江が防御に回る場面が増える。両者、1本を奪えないまま時間となり試合終了。判定の結果、山下が2年連続で決勝へ駒を進めた。

3位決定戦

入江 晃太 メ——小橋 渉

ベテラン小橋と大学生・入江の対戦となった。序盤から両者積極的に技を繰り出す。試合が動いたのは開始4分過ぎ。入江が思い切り跳び込んでメンを決める。入江が1本勝ちで小橋を下し、2回目の出場で3位入賞を果たした。

決勝

増田 道仁 メ——山下 大輝

2年連続で同じ顔合わせとなった。山下は試合開始から積極的に前に出てメンで攻め込む。試合開始から50秒過ぎ、いきなり試合が動く。遠間から両者ほぼ同時にメンに跳び込む。判定は赤旗が3本上がり、増田の有効打突に。山下も一本を取り返そうとメンやスネを放つも増田はこれを許さない。そのまま試合終了の合図が鳴り、増田が4連覇を達成した。



3位決定戦＝入江（左）がメンを決める



決勝＝増田（左）がメンを決める

飽くなき向上心で4連覇達成

●優勝Ⅱ増田道仁選手・三段（兵庫県庁）



増田 道仁
(ますだ・まさと)

1994年生まれ、兵庫県姫路市出身。3歳から剣道を始め、小学1年生から大会出場。中学時代には全日本少年剣道選手権大会で優勝。高校時代には全日本高校剣道選手権大会で優勝。大学時代には全日本大学剣道選手権大会で優勝。現在は兵庫県庁に勤務中。

——優勝した感想を。

「試合の内容に関しては反省する部分が多かったのですが、優勝できて嬉しいです。調子も良かったので、気持ちを投入して試合に臨むことができました」

——これで4連覇となりました。

「出場選手は皆、実力差がないと思うので、たまたま勝っているだけだと思います。連覇は意識せず、自分のできるだけだけをしつかりやろうと思っていました」

——前回3位だったお父様との対決は今回ありませんでした。

「父の試合は見えていたので負けた

ところも見てました。先に父が負けたので私が負けるわけにはいか

ないと思います、その後の試合に臨みました」

——今日の結果をどなたに報告しますか。

「まずは私が小さい頃から道場への送迎をしてくれていた祖父、そして家族に報告したいです」

——来年の大会で5連覇が期待されます。

「来年に向けては全員がまた一からのスタートとなるので、今日からまた頑張って練習していきます」

——今後の目標を聞かせてください。

「今回は地元開催ということもあり、たくさんの方に声をかけていただいたことが力になりました。競技としてのなぎなたは年数を重ねてきていますが、武道としてのなぎなたはまだまだ入り口にも立っていないくらいだと思いますので、自分のできることをがむしゃらにやってみようと思います」

——なぎなたは女子が盛んですが、男子のなぎなた普及について。

「力強さやスピードなど、男子ならではの面があると思うので、みんな男子のなぎなたを盛り上げていくように頑張りたいです」



優勝杯を授与される増田（右）

○準優勝Ⅱ山下大輝選手・三段



今まで指導してくださった奈良県の先生方、一緒に稽古してくれた先輩、後

輩の皆さん、支えてくれた家族に感謝の気持ちでいっぱいです。増田選手に勝ちたい一心で練習に励んできました。周りの方々のおかげで今の自分があると思っています。（決勝は）自分が打ちにくい瞬間を打たれてしまったので、自分が先に打てるようもつとスピードを上げていきたい。来年こそは増田選手に勝って優勝し、奈良県の先生方や家族にいい報告をしたいです。

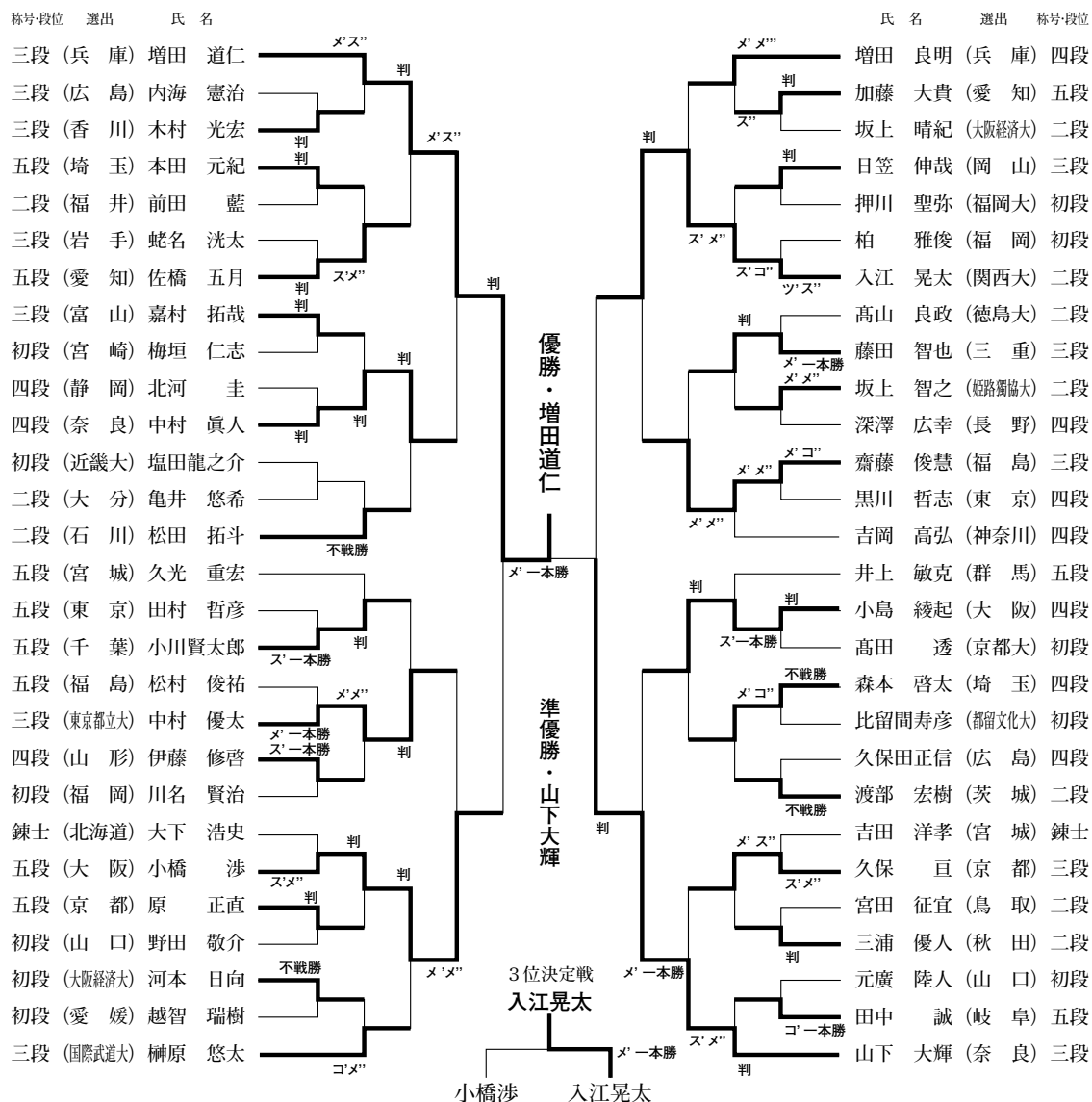
○第3位Ⅱ入江晃大選手・二段



2回目の出場ですが優勝目指して頑張ってきました。3位という結果は少し

悔しいんですが、記録に残る結果が出せたことは良かったです。（3回戦の）増田良明選手との対戦が一番の山場だと思っていました。自分から攻めて負けないように頑張りました

第22回全日本男子なぎなた選手権大会



※表のカタカナ表記は決まり手、その右肩の「」（アポストロフィ）の数は決まり手の順番を表す。



賞状を手にする(左から)入江、増田、山下の3選手

た。(準決勝は)後半、防戦一方になってしまいました。3位決定戦は気持ちを切り替えて勝って締め括れるよう挑戦者の気持ちで戦いました。来年は優勝しか考えていません。

第 71 回天皇杯 全日本相撲選手権大会

中村泰輝（日体大）が連覇 アマ相撲で有終の美を飾る

アマチュア横綱の称号をかけた第71回天皇杯全日本相撲選手権大会が昨年12月4日、東京・両国の国技館で全国から115名が参加して開催された。

決勝は、前回優勝の中村泰輝（日本体育大4年・写真右）が前回3位で日体大OBの松園大成（日体大職）を叩き込みで降し、25年ぶり9人目の連覇を達成した。中村は卒業後に角界入りを予定しており、学生最後となる大会で有終の美を飾った。





準々決勝②＝中村（右）が寄り切って勝ち上がる



準々決勝①＝石崎（左）が竹内を突き出して勝利



準々決勝④＝五島（右）を叩き込む松園



準々決勝③＝三上（右）と草野の立ち合い

大会はコロナ対策のため、選手を4グループに分けて予選トーナメントを実施。各グループを勝ち上がった4名が優秀16名として、決勝トーナメントに進んだ。

■準々決勝

▽石崎涼馬 ○突き出し 竹内宏晟

立ち合いで、一歩早く踏み込んだ石崎は、そのまま勢いよく竹内を突き出して勝利。準決勝に駒を進めた。

▽中村泰輝 ○寄り切り 山崎勝磨

連覇がかかる中村はこれまで順当に勝ち上がった。対する山崎は2022年の全国学生個人体重別選手権で中村を降し優勝している。中村は右四つから左をおつけ、そのまま寄り切って勝利した。

▽三上大輝 ○叩き込み 草野直哉

三上は決勝トーナメント1回戦で22年学生横綱のチョイジルスレンを破って勢いに乗る。三上は立ち合いで押されながらも回り込み、草野を叩き込んで、準決勝に進出した。

▽松園大成 ○叩き込み 五島雅治

松園は五島の猛攻を下から上手くあてがって叩き込んだ。松園は3年連続で準決勝に進んだ。

■準決勝①

▽中村泰輝 ○叩き込み 石崎涼馬

ともに日体大の4年生、チームメイトの対戦となった。石崎（写真）は右手を伸ばし左のまわしを取ったが、中村が冷静に叩き込みで退けた。中村が同門対決を制し、決勝に進んだ。



（左）は右手を伸ばし左のまわしを取

ったが、中村が冷静に叩き込みで退

けた。中村が同門対決を制し、決勝

に進んだ。

■準決勝②

▽松園大成 ○送り出し 三上大輝

立ち合いで下から迫る松園（写真奥）をかり上げる三上。しかし、松

園は三上の腕を上には跳ね上げた。体勢が崩れた三上をそのまま送り出して松園が勝利。松園が初めて決勝へと進んだ。



■決勝

▼中村泰輝 ●叩き込み 松園大成

日体大の学生とコーチによる対戦となった。中村（写真右）は松園をかち上げ、右の上手を狙う。頭が下がった松園をそのまま叩き込んで勝利を収めた。

中村は連覇を達成。アマ相撲最後の大舞台で大金星をあげ、学生相撲を締めくくった。



115名の選手によって大会は盛り上がりを見せた



大勢の観客でにぎわう会場

強い決意で取れた優勝

◎優勝Ⅱ中村泰輝参段（日本体育大学）



——今の気持ちを聞かせてください。

「アマチュア生活最後の全日本選手権の土俵で日体大の名入りのまわしをつけて優勝することができ、本当に嬉しいです」

——決勝はコーチの松園選手との対戦となりました。

「22年11月の全国学生選手権では決勝でチョイジルスレン選手に負けました。（優勝の時とは違い）大会後に誰からも祝福のメッセージが来ることなく、1位と2位の差を強く感じました。僕にとっては2位も3位も一緒です。優勝しないと意味がありません。先輩でも関係ない、何が

何でも勝ちにいくという気持ちで臨みました」

——今大会を振り返っての感想は。

「小学生の頃から対戦している思い出深い人たちとたくさん対戦できました。その中で、中村泰輝という名前が出場する最後の大会となりました。僕にとって悔いの残らない試合ができ、最後に相応しい大会になったなと思います」

——学生相撲の生活はどうでしたか。

「大学1年で学生横綱となつて、3年、4年でアマチュア横綱になりました。この大きい体を生かす相撲がとれるようになり、中村泰輝という名をアマ相撲史に刻むことができました」

——今後の進路は。

「監督としてしっかり相談をして、悔いのないようにしたいです。（大相撲で）自分がどこまで行けるか分かりませんが、上を目指して戦っていきたいと思います」

第71回全日本相撲選手権大会（決勝トーナメント）



ちびっ子力士が熱戦を展開

第35回全日本小学生相撲優勝大会



優勝者で記念撮影
左から犬塚君（4年）、岡山君（5年）、菅間君（6年）



6年生の部決勝＝押し倒しを決める菅間君（左）

全日本相撲選手権大会に先立ち、全国から集まった小学生男子による第35回全日本小学生相撲優勝大会が国技館で行われた。大会は4年生以下の部、5年生の部、6年生の部に各33名、計99名の選手が出場し、熱戦が繰り広げられた。

【大会結果】

■6年生の部

優勝Ⅱ菅間奏心（鹿児島県）

準優勝Ⅱ大手星来（熊本県）

3位Ⅱ佐々木久継（静岡県）、武甕大悟（京都府）

■5年生の部

優勝Ⅱ岡山裕弥（青森県）

準優勝Ⅱ佐々木陽希（秋田県）

3位Ⅱ高木颯芽（青森県）、竹本都輝（熊本県）

■4年生以下の部

優勝Ⅱ犬塚大翔（静岡県）

準優勝Ⅱ岩上毘優雅（静岡県）

3位Ⅱ岩本大和（兵庫県）、上田暁正（愛媛県）



相撲の成立から現状を経て将来像へ

相撲の成立から、現代相撲の基本的な条件が整うまでの歴史の概略をたどり、相撲技術の歴史的な変遷について概観する。

「相撲はどこから来たのか、相撲とは何か、相撲はどこへ行くのか」を問う著者渾身の一書。



四六判・上製・422頁・2,400円＋税

相撲 その歴史と技法

東京大学大学院
法学政治学研究科教授

新田 一郎 著

日本武道館発行 単行本のご紹介

編集発行 公益財団法人 日本武道館

〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2番3号
<http://www.nipponbudokan.or.jp/>



男子 90^{キロ}級・決勝＝増山（下）が背負投で見事な一本勝を決めた

男子
90^{キロ}級

増山香補（パーク 24）が 五輪メダリストを破り優勝

日本勢

男子 5 ・ 女子 全 7 階級制覇

柔道 グランドスラム 東京 2022



女子 52^キ級・決勝＝阿部（右）が苦戦しながらも果敢に攻める

女子
52^キ級

阿部詩（日本体育大）が ドーハ世界選手権内定

国内では3年ぶりとなる柔道の「グランドスラム（GS）東京2022」が昨年12月3日・4日、東京・千駄ヶ谷の東京体育館で開催された。本大会は一昨年の東京五輪以来、国内で開催される初の国際大会。今年5月の世界選手権（ドーハ）の選考会を兼ねており、大会には五輪チャンピオンやランキング上位の選手が顔を揃え、熱戦を繰り広げた。

男子90^キ級では増山香補（パーク24）が準決勝で東京五輪金のラシャ・ベカウリ（ジョージア）を、決勝で東京五輪銀のエドゥアルト・トリツペル（ドイツ）を立て続けに破って優勝。女子では、東京五輪女子52^キ級金の阿部詩（日本体育大）が膝の故障を抱えながらも、決勝で相手の反則負けによって優勝し、世界選手権の代表に内定した。日本勢は男子が5階級、女子は7階級全てを制覇し、世界選手権や24年のパリ五輪に向けて好調ぶりを発揮した。



男子 66*級・決勝＝丸山（下）が巴投で一本勝

男子

▼60*級

22年の講道館杯で優勝を果たした近藤隼斗（国士舘大）が決勝に進出。相手は22GSパリで準優勝のチョン・スンボム（韓国）。試合は延長戦に突入。開始から4分30秒、スンボムが袖釣込腰で技有。近藤は惜しくも銀メダルとなった。

▼66*級

決勝は、本年度世界選手権2位の實力を持ち、GSでも2度優勝している丸山城志郎（ミキハウス）と高校生ながら強豪を下してここまで勝ち上がった服部辰成（東海大相模高）の一戦。序盤から圧を掛ける丸山に対して服部はなかなか前に出られない。開始から50秒、丸山がタイミング良く巴投を決めて見事な一本。圧巻の優勝となった。

○丸山城志郎選手（ミキハウス）



「優勝できて嬉しいですね。試合内容はあまり良くありませんでしたが、苦しいながらも勝ちに繋げることができたので、今後の試合にも良い影響があると思います。試合では常に周囲の喜ぶ顔を思い浮かべています。今回の勝利も周囲の人たちの協力や応援のおかげだと思います」

▼73*級

東京五輪金メダリストの大野将平（旭化成）が欠場する中、決勝は22年の世界選手権2位、体別選手権覇者の橋本壮市（パーク24）と、大野に代わり、補欠出場ながらここまですで勝ち上がった古賀颯人（慶應義塾高教）の一戦。本戦は両者なかなか攻めきれず両者に指導2が入り延長戦へ。決着がついたのは試合時間6分過ぎ、橋本が一本背負投で技有を奪い、優勝を決めた。

○橋本壮市選手（パーク24）





男子 73^{kg}級・決勝＝橋本（左）が一本背負投で技有を奪う



男子 81^{kg}級・決勝＝小原（奥）が隅返を仕掛ける

「ここまでケガが多かったので、いい準備をすることができませんでしたが、絶対に優勝するという強い気持ちで挑みました。それが結果に繋がったと思います。世界選手権では準優勝止まりだったので優勝できて良かったです。会場の応援がすごく大きな力になりました。今後は次の大会に向けて一つ一つ頑張りたいと思います」



○小原拳哉選手（パーク24）

「今日の勝利はバリ五輪につながるスタートラインになったと思います。有観客になって柔道の素晴らしさを身近に皆さんに知っていただける機会になったと感じました。（私も）この大会で非常に元気をもらいました。（決勝の永瀬選手は）今まで何度も対戦経験があり、手の内を知っている選手だったので、一瞬も気の抜けない試合でした。勝ち切れて良かったです」

▼81^{kg}級

決勝は22年の講道館杯で優勝している小原拳哉（パーク24）と東京五輪チャンピオンの永瀬貴規（旭化成）の一戦。試合は永瀬が圧をかけるも技を決めきれないまま延長に突入。試合時間5分過ぎ、小原が永瀬を抱え込み、そのまま振り上げて隅返で技有。五輪チャンピオンを下し、見事な初優勝を果たした。

▼男子 90^{kg}級

決勝は、準決勝で東京五輪優勝のラシャ・ベカウリ（ジョージア）に指導3の反則負けによって勝利した増山香補（パーク24）が東京五輪銀メダリストのエドゥアルト・トリッペル（ドイツ）と対決。世界選手権2回戦敗退の悔しさをバネに勢いに乗る増山は積極的な攻めで早々に相手に指導1が入る。トリッペルは技を仕掛けようと機会をうかがうも増山の猛攻についていけず、開始から1分30秒、増山が背負投を豪快に決めて一本。強豪の海外勢を倒し、世界選手権の悔しさを晴らした。



男子 90^{kg}級・準決勝＝増山（左）がベカウリを攻める



男子 100kg超級・決勝＝太田（上）が大内刈で一本勝

○増山香補選手（パーク24）



「世界選手権では2回戦敗退となり、自信が持てない中で挑んだ大会でした。そのため先を見るのではなく、目の前の試合しか見えていませんでした。それでも金メダルを獲得することができ、少し自信を取り戻すことができました。準決勝は世界選手権で負けた相手だったので、リベンジすることができました。パリ五輪を見据え一つ一つ積み上げていきたいと思っています」

▼100kg級

優勝候補と思われた東京五輪金メダリストのウルフ・アロン（了徳寺大戦）がまさかの初戦敗退。決勝に進んだのは2回戦でウルフを下したジェンナロー・ピレリ（イタリア）と飯田健太郎（旭化成）。試合は序盤からピレリが積極的に技を仕掛ける。飯田は技を仕掛けようとするが上手くないなされて前に出ることが

できず、試合時間7分51秒、指導3を受けて試合終了となった。

▼100kg超級

決勝は21年全日本選手権王者で斉藤立（国士舘大）の代理で出場した太田彪雅（旭化成）と22年アジア選手権優勝の影浦心（日本中央競馬会）の一戦。両者は共に東海大卒で影浦が二つ上の先輩に当たる。試合は序盤から影浦が積極的に攻めの姿勢を見せ、太田に二つ目の指導が入る。しかし、試合開始4分50秒過ぎ、太田が影浦の背中に手を回し、そのまま大内刈で一本勝。18年大会以来のGS制覇を果たした。

○太田彪雅選手（旭化成）



「何何でも優勝するという気持ちを強く持って挑みました。補欠出場で練習期間は短かったのですが、出場の可能性を信じて準備しました。投技が上手く決まったので、収穫もたくさんありました」

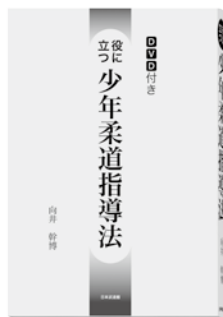
解説DVD付属!

講道館柔道七段

向井幹博 著

役に立つ少年柔道指導法

「柔道指導を通じた人間教育」という理念を基に、少年柔道指導の現場で役に立つ指導方法を掲載。少年柔道が抱える様々な問題点について講道館所蔵の柔道文献から解決の糸口を探る。



A5判・並製・414頁・DVD付
定価2,640円

◎ご注文・お問い合わせ◎

日本武道館 月刊「武道」編集部
〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
TEL 03-3216-5147 FAX 03-3216-5158
<https://www.nipponbudokan.or.jp>



女子48kg級・決勝＝宮木（上）が立川から技有を奪い初優勝

女子

▼女子48kg級

決勝は22年の世界カデ選手権優勝の宮木果乃（修徳高）と、準決勝での22年世界選手権金メダリストの角田夏実（了徳寺大職）を下した立川莉奈（福岡県警）が対戦。立川が序盤から積極的に技を仕掛け、宮木に二つ指導が与えられる。立川が優勢のまま試合が進んだが、開始から4分26秒、宮木が力を振り絞って背負投を掛ける。これが技有となり試合終了。高校生の宮木が嬉しい初優勝を飾った。

▼女子52kg級

決勝は東京五輪女王の阿部詩（日

「初めての大きな舞台で決勝まで勝ち上がり、優勝することができてとても嬉しいです。角田選手をはじめ、強い選手がたくさんいるので、そのことを意識して練習を積んできました。結果が出て良かったと思います」



○宮木果乃選手（修徳高）



女子57kg級・決勝＝舟久保（上）が芳田に横四方固を決める



女子63kg級・決勝＝高市（左）が果敢に攻めの姿勢を貫く

体大」と志々目愛（了徳寺大職）のライバル対決。試合は互いに手の内がわかっていいためか、なかなか技を仕掛けることができない。徐々に阿部が投技を掛けようとするも志々目はこれをうまくいなす。決着がついたのは試合開始から8分4秒、執念で技をかけ続けた阿部に對し、手が出ない志々目に三つ目の指導が入

「2週間前に膝を痛めたり、体調が



○阿部詩選手（日体大）

り試合終了。阿部が苦戦しつつも優勝を果たした。

優れなかったので不安要素がたくさんありましたし、今大会の試合は厳しいものになると予想していました。実際、試合では自分の思うような攻めができず、厳しいものでしたが、それでもメンタルだけは集中していたので、優勝に繋がったと思います」

▼57kg級

決勝は22年のGSで2度優勝し、初戦からオール一本勝で勝ち上がった舟久保遥香（三井住友海上）と東京五輪銅メダリストの芳田司（コマツ）の対決。序盤は芳田が足技を仕掛ける展開。しかし、開始から1分30秒すぎ、寝技に移行しようとした芳田を逆に舟久保が横四方固で返し、そのまま一本勝で優勝を果たした。

○舟久保遥香選手（三井住友海上）



「（パリ五輪の）代表の座をかけての争いはこれから厳しくなっていくと思うので、しっかり今日の試合を



女子70⁺級・決勝＝新添（右）が鮮やかな払腰で一本勝

反省し、次に繋げて練習していきたいと思います。今の自分の課題は組み手と引き手です。今日もあまり上手くできていなかったもので、次までにしっかり直したいと思います」

▼63⁺級

決勝は講道館杯で優勝し、昨年11月に結婚を発表したばかりの高市未来（コマツ、旧姓田代）と、準決勝で22年世界選手権金メダリストの堀川恵（パーク24）を下して勝ち上がった渡邊聖子（警視庁）の一戦。試合は序盤から両者なかなか攻め切ることができず、早々にそれぞれ指導1が入る。その後、互いに袖を絞り合う展開の末、渡邊に二つ目の指導が入る。その後も両者技を仕掛けられず、開始から3分30秒、両者に指導が入り、渡邊が指導3となり試合終了。高市が21年3月のGS以来の優勝を決めた。

○高市未来選手（コマツ）



「足りない部分はありましたが、勝ち切らないといけないという気持ちが強くなりました。（世界選手権の代表になれるかどうかは）現在、首の皮一枚繋がっている状況だと思います。その中でも自分らしさを出せる柔道を目指して頑張りたいと思います」

▼70⁺級

日本人選手が海外勢に次々破れる中、決勝に勝ち上がったのは22年世界選手権3位の新添左季（自衛隊体育学校）とイーフェ・コフラン（オーストラリア）。序盤から積極的に足技を仕掛ける新添。相手の仕掛ける技も冷静に捌く。決着がついたのは試合開始から3分25秒、一気に払腰を仕掛けて一本。日本開催の大会での嬉しい優勝となった。

○新添左季選手（自衛隊体育学校）



「今大会は一つ一つの試合で作戦を立てて挑み、作戦通りに勝つことが



女子 78⁺kg級・決勝＝高山（上）が濱田を横四方固で返して優勝



女子 78⁺kg超級・決勝＝素根（下）が一本背負投で技有のポイントを得る

できました。この後のワールドマスターズや世界選手権も出場できる可能性があるので、今回の反省点を修正して次の試合へ繋げていきたいと思っています」

▼78⁺kg級

決勝は、22年の講道館杯覇者の高山莉加（三井住友海上）と東京五輪金メダリストの濱田尚里（自衛隊体育学校）の対決。試合は序盤から濱田が寝技で攻める。しかし、何度か対戦経験のある高山はギリギリのところでこれを躲^{かわ}す。そして開始4分53秒、寝技に入ろうとした濱田の腕を後ろから取り、逆に横四方固で返して一本勝。寝技の女王である濱田を倒して高山が優勝を決めた。

○高山莉加選手（三井住友海上）



「パリ五輪に絶対に出るという強い気持ちで挑みました。最近は国際大会や大事な試合で負けることが多かったため、五輪という目標も口に

出すことができませんでした。しかし、講道館杯で優勝し、今回も優勝できたので、その目標を改めて掲げることができました」

▼78^キ超級

東京五輪金メダリストの素根^{あき}輝^{あき}（パーク24）と講道館杯優勝の秋場麻優^{あや}（ALSOK）の決勝。先制したのは素根。開始から約40秒で一本背負投を仕掛け、技有を奪う。秋場も取り返そうと畳みかけるが素根はこれを上手く躲す。その後も素根優位のままで進み試合終了。五輪女王としての強さを見せつけた。

○素根輝選手（パーク24）



「この大会は絶対に優勝するという強い気持ちで挑みました。結果を残すことができて良かったです。ただ試合の内容はあまり良いものではなく、克服しなければならぬ部分がたくさんありました。技が単発になつてしまったり、パワーも十分に

ないので、全ての部分で強化を重ねていきたいと思っています」



大会終了後、全日本柔道連盟は強化委員会を開き、女子52^キ級の阿部詩選手の世界選手権代表を内定した。他の階級はこのあと決定する。

委員会後の記者会見で、阿部選手は「代表が決まってもっとほっとしました。世界選手権は23年5月なのでそれまでもっと自分を高められると感じています。まだまだ組手や足技を決められることがあるので、一本を取りにいく柔道を極めつつ、世界選手権の時にはさらに進化した阿部詩を見せたいと思っています。来年は24年のパリ五輪の代表をかけた争いが本格化するのので、それに繋がられるような一年にしていきたいと思っています」と語った。



【大会結果】

◆男子	優勝	2位	3位	その他の日本選手
60 ^キ 級	S.JEON（韓国）	近藤藤斗（国士舘大）	古賀玄暉（旭化成） H.LEE（韓国）	永山竜樹（了徳寺大職）= 5位 福田大和（比叡山高）= 2回戦敗退
66 ^キ 級	丸山城志郎（ミキハウス）	服部辰成（東海大相模高）	M.GOBERT（フランス） B.YONDONPERENLEI（モンゴル）	武岡 毅（パーク24）= 5位 田中龍馬（筑波大）= 7位
73 ^キ 級	橋本壮市（パーク24）	古賀颯人（慶應義塾高教）	K.MORKA（ポーランド） 大吉賢（了徳寺大職）	原田健士（ALSOK）= 1回戦敗退
81 ^キ 級	小原拳哉（パーク24）	永瀬貴規（旭化成）	藤原崇太郎（旭化成） A.DJALO（フランス）	佐々木健志（ALSOK）= 5位
90 ^キ 級	増山香楠（パーク24）	E.TRIPPEL（ドイツ）	村尾三四郎（東海大） L.BEKAURI（ジョージア）	向翔一郎（ALSOK）= 5位 ベイカー・茉秋（日本中央競馬会）= 5位
100 ^キ 級	G.PIRELLI（イタリア）	飯田健太郎（旭化成）	植岡虎太郎（天理大） グリーンカラニ海斗（日体大）	ウルファロン（了徳寺大職）= 2回戦敗退
100 ^キ 超級	太田彪雅（旭化成）	影浦 心（日本中央競馬会）	原沢久喜（長府工産） G.KRIKBAY（カザフスタン）	高橋 翼（国士舘大）= 5位
◆女子	優勝	2位	3位	その他の日本選手
48 ^キ 級	宮木果乃（修徳高）	立川莉奈（福岡県警）	角田夏実（了徳寺大職） 古賀若菜（山梨学院大）	
52 ^キ 級	阿部 詩（日本体育大）	志々目愛（了徳寺大職）	大森生純（帝京大） S.LKHAGVASUREN（モンゴル）	横田ひかり（佐久長聖高）= 5位
57 ^キ 級	舟久保遥香（三井住友海上）	芳田 司（コマツ）	玉置 桃（三井住友海上） 大森朱莉（帝京大）	
63 ^キ 級	高市未来（コマツ）	渡邊聖子（警視庁）	堀川 恵（パーク24） 銅倉那美（了徳寺大職）	
70 ^キ 級	新添左季（自衛隊体育学校）	A.COUGHLAN（オーストラリア）	A.TSUNODA ROUSTANT（スペイン） E.TELTSIDOU（ギリシア）	宇野友紀子（JR東日本、桑形萌花（三井住友海上）、 西藤寺里保（コマツ）= いずれも2回戦敗退
78 ^キ 級	高山莉加（三井住友海上）	濱田尚里（自衛隊体育学校）	梅本真美（ALSOK） N.AUSMA（オランダ）	泉 真生（コマツ）= 7位
78 ^キ 超級	素根 輝（パーク24）	秋場麻優（ALSOK）	L.FONTAINE（フランス） H.KIM（韓国）	富田若春（コマツ）= 5位 児玉ひかる（東海大）= 7位



2022 年少林寺拳法全国大会 in OSAKA



2022 年少林寺拳法全国大会が昨年11月19・20日に丸善インテックアリーナ大阪（大阪府大阪市）で行われた。「自己確立、自他共榮」を大会テーマに、コロナ禍でも多くの人々の笑顔が吹き誇ることを目指して、6歳から88歳までの男女およそ1400名の拳士が全国から集合した。

大会では、競技の部（組演武）と発表の部（組演武、運用法、論文）が行われた。大阪大会は20年に計画されていたが、コロナ禍のため中止となった。21年の東京大会も中止となり、今大会は感染対策を講じながら3年ぶりに開催された。拳士たちは各部門で迫力ある演武を披露し、演武後は安堵と喜びの笑顔を見せていた。

3年ぶりに全国大会を開催 大阪で1千400人の笑顔咲く





左から井上弘少林寺拳法連盟理事、
論文を発表したシュエイタン拳士と安岡さくら拳士



井上礼之
大阪府少林寺拳法連盟会長



宗昂馬
少林寺拳法連盟会長



府立狭山高校の書道パフォーマンス。
ZARDのヒット曲「負けないで」に合わせてその
歌詞が書かれた



鎮魂行



大阪府立泉北高校少林寺拳法部の
冨田勇人拳士と船戸弘哉拳士による演武披露

初日の19日は、少林寺拳法連盟の宗昂馬会長の開会宣言で始まり、競技の部の予選が行われた。

20日は、初めに大阪府立狭山高校の書道部が曲に合わせた書道パフォーマンスを披露し、大会に花を添えた。開会式では、鎮魂行、演武披露に続いて、大阪府少林寺拳法連盟の井上礼之会長が「本大会のテーマは笑顔であります。人と人が仲良く寄り添うことが大切です。拳士の皆さんには自己存在感を実感し、その楽しさを積み重ねてください」と大会挨拶を行った。

次に論文の部の発表が行われ、ミヤンマー出身のシュエイタン拳士が「平和のために私ができる事」、安岡さくら拳士が「少林寺拳法を始めてからの自分の変化について」と題して発表した。少林寺拳法連盟の井上弘理事が「少林寺拳法の大会は他の武道大会と違うことが一つあります。それは論文発表です。発表を聴きながら自分自身を振り返ることができる素晴らしい機会です」と講評を行った。

組演武本選の競技と発表では、大阪府立和泉高校ブラスバンド部の演



渡辺待男
東京都少林寺拳法連盟
理事長



和泉高校ブラスバンド部の演奏に合わせて演武を行う大阪府少林寺拳法連盟の拳士たち



男子運用法の部



手拍子によって位置を把握し演武する全盲の拳士



シニア拳士も迫力ある演武を見せた



会場の丸善インテックアリーナ大阪



大会の最後には、宗会長とYouTubeバー・虹色侍ずまによる少林寺拳法の新たなテーマソングが大型スクリーンの映像(写真)によって発表された。新テーマソングは、従来の松崎しげる氏の「ひとりひとりの心に深く」を元に、令和の時代にふさわしい楽曲を再構成している



奏によって拳士が入場し演武。運用法優秀組による発表と続いた。拳士たちは日頃の稽古の成果を出そうと、気合を込めて演武を行った。

競技・発表の終了後、大阪府少林寺拳法連盟と和泉高校ブラスバンド部によるアトラクション演武が行われた。ロールプレイングゲーム・ファイナルファンタジー「プレリユード」オープニング・テーマ」が演奏され、荘厳な空気に包まれて開始された。さまざまな楽曲に合わせて、老若男女の拳士が凛々しい演武を披露。ファイナルファンタジー「勝利のファンファーレ」が鳴り響くと、演奏者は立ち上がってステップを踏みながら「シング・シング・シング」を熱奏。観客の手拍子とともに、拳士たちも場内いっぱいに広がって負けじと熱が入った演武を披露した。アトラクションが終了すると場内からは万雷の拍手が送られた。

閉会式では、東京都少林寺拳法連盟の渡辺待男理事長が「来年(23年)の10月に東京・日本武道館で世界大会を開催します。皆さんと東京で世界大会をやっていききたいと思います」と挨拶を行い、大会は終了した。

武道

子どもものの心を

はぐくむ

早稲田大学名誉教授

菅野純 著

臨床心理学の立場から子どもを育む武道の可能性、教育力に迫る。
子どもをより良く伸ばすための知恵と珠玉のことばが満載。



四六判・上製・408頁・定価2,640円

◎ご注文・お問い合わせ◎

(公財)日本武道館 月刊「武道」編集部
〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
TEL 03-3216-5147 FAX 03-3216-5158
<https://www.nipponbudokan.or.jp>

〔大会結果〕

■一般男子マスターズの部A

- ▼最優秀賞Ⅱ竹島昌寿・泊明日香(奈良県)
- ▼優秀賞Ⅱ牧村昌司・牧村万紀子(愛知県)
- ▼優良賞Ⅱ服部哲也・松浦充(愛知県)

■一般男子マスターズの部B

- ▼最優秀賞Ⅱ大森浩・門谷政智(大阪府)
- ▼優秀賞Ⅱ伊藤宏治・荒井英俊(東京都)
- ▼優良賞Ⅱ坪井裕之・南潤一郎(広島県)

■一般女子マスターズの部

- ▼最優秀賞Ⅱ富田祐子・加藤瞳(愛知県)
- ▼優秀賞Ⅱ齋藤友紀・古橋麻衣子(愛知県)
- ▼優良賞Ⅱ山脇裕子・西村理美(京都府)

■一般男子五段以上の部

- ▼最優秀賞Ⅱ松本圭司・坂田浩司(香川県)
- ▼優秀賞Ⅱ加藤利彦・加藤智弘(愛知県)

- ▼優良賞Ⅱ藤井孝清・稲野卓也(奈良県)
- 一般男子三段、四段の部
- ▼最優秀賞Ⅱ新井椋大・内木雄飛(東京都)
- ▼優秀賞Ⅱ大内喬介・大内絢介(京都府)
- ▼優良賞Ⅱ竹井祐二・築地飛武(大阪府)

■一般男子初段、二段の部

- ▼最優秀賞Ⅱ三野チアゴ光・本山智貴(愛知県)
- ▼優秀賞Ⅱ中井優作・五十子黎(東京都)
- ▼優良賞Ⅱ桂木周平・神保大地(大阪府)

■一般女子三段以上の部

- ▼最優秀賞Ⅱ大西美咲・山田紫園(香川県)
- ▼優秀賞Ⅱ森井愛美子・河原やよい(奈良県)
- ▼優良賞Ⅱ山本望・高橋明日香(東京都)

■一般女子初段、二段の部

- ▼最優秀賞Ⅱ山下智代・草葉裕未(大阪府)
- ▼優秀賞Ⅱ中川瑞貴・福原杏奈(岡山県)
- ▼優良賞Ⅱ根本佳・鎌田祐衣(宮城県)

■女子護身技法の部

- ▼最優秀賞Ⅱ出井達也・川村海月(愛知県)
- ▼優秀賞Ⅱ井上日和・井上陸(岡山県)
- ▼優良賞Ⅱ大野水彩・荒井大輝(埼玉県)

■大学生男子の部

- ▼最優秀賞Ⅱ大西千匡・合田仁二郎(全日本学生)
- ▼優秀賞Ⅱ谷龍一・前田琉慧(東京都)
- ▼優良賞Ⅱ小田翔・日光駿太(東京都)

■大学生女子の部

- ▼最優秀賞Ⅱ遠藤直・三森菜々香(全日本学生)
- ▼優秀賞Ⅱ三笠七海・大崎つぐみ(大阪府)
- ▼優良賞Ⅱ喜多あみる・高橋希実(京都府)

■高校生男子の部

- ▼最優秀賞Ⅱ阿種品泰輝・豆山陽哉(香川県)
- ▼優秀賞Ⅱ小嶋智希・下野大和(全国高校)
- ▼優良賞Ⅱ安藤琥斗輝・鈴木出海(全国高校)

■高校生女子の部

- ▼最優秀賞Ⅱ荏原碧・壽浅瑠称(北海道)
- ▼優秀賞Ⅱ越智桃歌・霜田華(全国高校)
- ▼優良賞Ⅱ花里美奈・佐々木ひかり(全国高校)

■中学生男子の部

- ▼最優秀賞Ⅱ相良海翔・南小蒔(大阪府)
- ▼優秀賞Ⅱ新岡史道・武田舞人(北海道)
- ▼優良賞Ⅱ多田佑希・木村桜輔(大阪府)

■中学生女子の部

- ▼最優秀賞Ⅱ本田明利・白瀬母香(滋賀県)
- ▼優秀賞Ⅱ藤本風・竹山桜子(愛知県)
- ▼優良賞Ⅱ徳丸樹・梶原法香(福岡県)

■小学生の部A

- ▼最優秀賞Ⅱ古橋慧・小杉美心(愛知県)
- ▼優秀賞Ⅱ森谷雄優・山田実咲(愛知県)
- ▼優良賞Ⅱ井上慧美・篠嶋那結(北海道)

第 66 回全日本大学空手道選手権大会



男子団体形の部・女子団体形の部

男子団体組手・女子団体組手

帝京（関東）が4冠を達成 14年ぶり2度目の快挙

大学空手日本一を決める第66回全日本大学空手道選手権大会が昨年11月20日、日本武道館で開催され、帝京大（関東）が4部門全てで優勝し、14年ぶり2度目の全部門制覇の快挙を成し遂げた。
本大会はコロナ禍後、3年ぶりに観客を入れて開催。全国の地区予選を勝ち抜いた大学が「男子団体形（3人制）」「女子団体形（同）」「男子団体組手（5人制）」「女子団体組手（3人制）」の4部門で熱戦を展開した。

■男子団体形 決勝

○帝京 ウンスー

大 正 ゴジウウシホショウ

決勝に駒を進めたのは12回の優勝を誇る帝京と初優勝を目指す大正のいずれも関東勢。先に演武を行った大正は初の決勝という大舞台でも緊張を感じさせず、キレのあるゴジウウシホショウを演武した。

対する帝京は得意のウンスーを演武。切れ、スピードを兼ね備えつつ、動きの揃った3人の演武に、会場からも大きな拍手が沸いた。

結果は帝京が28・80点で大正（27・30点）を下した。

▼帝京大・在本幸司男子団体形監督「メンバーの中には怪我をしている選手もいたので心配もありました

が、正直ほっとしました。選手にはプレッシャーがあったと思いますがしつかり乗り越えてくれました。形を含めて全種目優勝できて良かったです」

■女子団体形 決勝

○帝京 ウンスー

同志社 アーナン

決勝は13回優勝を誇る帝京と準優勝7回の同志社の関東・関西の強豪校同士の顔合わせ。まず演武を行ったのは同志社。これまであと一歩で優勝を逃している同志社は体勢を崩す場面が見られたものの、最後まで力のこもった演武を披露した。

続く帝京は女子も得意とするウンスーを演武。男子と同様に圧倒的な



【男子団体形・決勝】帝京によるウンスー（分解）の演武



【女子団体形・決勝】帝京によるウンスーの演武



圧倒的な強さで優勝を果たした
帝京の男子形・女子形チーム

スピードと正確さで王者の貫禄を見せつけた。
結果は帝京が28・60点、同志社が26・30点。2点以上の差をつけて15回目の優勝を飾った。
▼帝京大・岡本沙織女子団体形監督「きちんと準備を整えた上でこの大会に挑めました。今年のメンバーなら優勝できると安心していました。コンディションも良かったので、心配なく試合に送り出しました」

男子団体組手 決勝

○帝京 3―2 近畿

決勝は連覇を狙う帝京と毎年上位入賞を果たしている近畿の東西トップ校同士の対決。

先鋒戦は帝京・鈴木晃成と近畿・中野紘志朗。両者、なかなか技を繰り出すことができなかったが、試合が動いたのは残り8秒。鈴木が上段突きを決めて1ポイントを取った。鈴木

木はその後にも1ポイントを決め、土壇場で勝利をもぎ取った。次鋒戦では、帝京・片岡大樹が近畿・赤曾部瑞生に3―1で勝利し、帝京が優勝に王手をかける。

しかし、中堅で近畿・中村虎太郎が帝京・宮崎光に4―3で勝利を取めると、続く副将戦でも近畿・南友之輔が相手にポイントを与えずに3―0で勝利を取め、勝敗は五分に。全ては大將戦に委ねられた。

大將戦は帝京・池田蓮と近畿・南元希の対戦。両者、攻めの機会をうかがうも攻撃を仕掛けることができない。試合時間残り30秒、池田が上段突きを決めて先取。その後、続けて池田が上段突きを決める。南も反撃に出たが、試合はそのまま終了。池田が2―0で接戦を制して帝京が優勝を決めた。

▼帝京大・稲田保久男子団体組手監督「思った通りの勝利でした。優勝の決め手となった池田選手は昨年也大將を務めているので、信じていました。先鋒と次鋒が勝った時点でこれは勝ちだと確信しました。負けるという気持ちは一切なかったです」



【男子団体組手・決勝】帝京の大將・池田（左）が上段突きを決める

女子団体組手 決勝

○帝京 2-0 京都産業

決勝は2018年全日本選手権で優勝した香川幸允氏^{ひさよし}が監督を務める帝京と、東京五輪の男子組手75^キ超級で銅メダルを獲得した荒賀龍太郎氏が監督を務める京都産業の対戦。先鋒は21年全日本選手権優勝の帝京・澤江優月と京都産業・大西照葉の対決。試合は大西が先制するも、澤江が猛攻を見せ、3ポイント取り



【女子団体組手・決勝】帝京・澤江（右）が2本目の上段突きを決める

返し逆転勝ちした。中堅戦でも京都産業・坂地心が先制するが、帝京・島愛梨が残り25秒で2ポイントを獲得。近年優勝を逃していた帝京が5年ぶりの優勝を果たした。

▼帝京大・香川幸允女子団体組手監督
「5年間優勝を逃していたため、最後に悔しい思いを晴らしてくれたと思います。今日はメンバー全員が実力を発揮してくれました。来年（23年）は今回出られなかったメンバーが奮起して（今回の結果に）食らいついていけるように頑張ってくださいです」

◇
14年ぶり2度目の4冠を達成した帝京大の香川政夫空手道部師範に今回の感想を聞いた。

「感無量です。奇跡が2度起こってしまったという気持ちです。これはコーチ陣の充実、OBの練習参加など諸々の結束力が発揮された結果だと思います。これが部員たちの自信になってくれたらと思います。来年（23年）も4冠の可能性があると思いますので、それを目標に頑張っていきたいです」

日本武道館の単行本



死ぬまで弓道 弓道教士七段 小牧佳世 著
四六判・上製・342頁・定価2640円

競技中に急性大動脈解離に倒れた筆者は奇跡的な生還を果たす。その8カ月後に弓道を再開し、わずか2年後に皇后盃で十射皆中、優勝を果たした。本書では激動の自伝を記し、弓のあり方や「早気」など弓道家の誰もが陥る課題などを模索する。死の淵を覗き、現在も全身全霊で弓を引き続ける筆者だからこそ記せた弓道伝記かつエッセイ集。



学校武道の歴史を辿る 筑波大学名誉教授 藤堂良明 著
四六判・上製・354項・定価2640円

明治維新を迎え、武術は衰退したが、近代化の過程で武道が「人間形成の道」として学校制度の中に組み込まれ、発展した。太平洋戦争後に武道は全面禁止となるが、それを乗り越え、「格技」として復活。平成24年度には「中学校武道必修化」が実現した。学校武道の歴史を丹念に辿り、今後のあり方を探る。



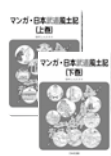
空手道 その歴史と技法 小山正辰・和田光二・嘉手苅徹 著
四六判・上製・548項・定価2640円

空手は沖縄で発祥し、日本本土に伝承され、今や世界のKARATEとなった。その歴史と技法を、那覇系剛柔流の小山正辰氏、首里系松涛館の和田光二氏、沖縄空手研究の第一人者である嘉手苅徹氏の共同執筆で重層的に紐解く。嘉手苅氏が発見した剛柔流の開祖・宮城長順の最新の事実、小山・和田の両世界チャンピオンのエピソードなども満載。空手の真髄に迫る白眉の一篇。



武道の礼法 弓馬術礼法小笠原清忠三十一世宗家 小笠原清忠 著
四六判・上製・282頁・定価2640円

「時、所、相手」に応じた正しい生活態度として現れる礼法。礼法の歴史を伝書をもとに詳述し基本姿勢、動作などを連続写真やイラストとともにわかりやすく解説。小笠原流宗家が直々指南の礼法解説書。



マンガ・日本武道風土記 漫画家、別府大学客員教授 田代しんたろう 著
B5判・248項・定価1100円

全国の「武道ゆかりの地」を実際に訪ねて、ペンとスケッチブックを片手に徹底取材。地元関係者や施設の学芸員とのやりとり、その土地の成り立ちをわかりやすくマンガで紹介。多数の資料をもとに丹念に描いた当時の風景も魅力の一つ。マンガの世界で日本各地をめぐってみたい。



幸せについて考えよう 元衆議院議員・博愛会会長 小野晋也 著
四六判・上製・394項・定価2640円

この混迷の時代・社会において「武道」が果たすべき大きな役割とは、「様々な困難を乗り越え切り開く道具を持って、人生を雄々しく歩いていく」という前向きな人生姿勢を一人ひとりに、そして社会全体に取り戻すことにあるのではないだろうか。



合気道に生きる 合気道九段 多田 宏 著
四六判・上製・402頁・定価2640円

昭和初期に生れ、戦後の早大生時代に植芝盛平、植芝吉祥丸、船越義珍、中村天風、日野正一の諸先生の教えを受け、合気道の稽古を生業の道と志す。昭和から平成への激動の時代に、本部道場師範を務め、各大学に合気会を創設、自らの道場も主宰し、さらに欧州各国への普及に尽力。合気道に活きた泰斗の軌跡を余すところなく示す珠玉の一篇。

ご注文・お問い合わせ

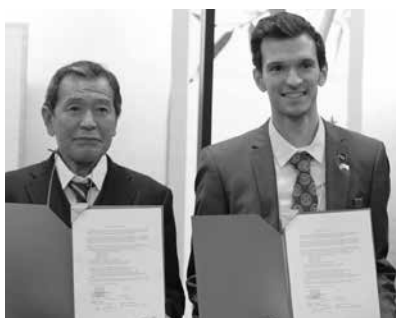
(公財)日本武道館 月刊「武道」編集部
〒102-8321 東京都千代田区北の丸公園2-3
TEL 03-3216-5147 FAX 03-3216-5158
<https://www.nipponbudokan.or.jp>



米国の4大学が全学空連に加盟 日本武道館で調印式

全日本学生空手道連盟（全学空連）にこのほど、国際交流の一環として、米国の4大学（マサチューセッツ工科大、ハーバード大、ボストン大、ウェズリー大）が加盟した。全学空連に海外の大学が加盟したのは初。

全学空連傘下の全日本理工科系学生空手道連盟は、以前から米国のニューイングランド学生空手道連盟（NECKC）と交流。21年になって米国4大学が所属する組織（MHKH）から全学空連加盟の意向が示されていた。こ



調印を行ったチロヤン監督（右）と松倉栄重全学空連理事長

れを受け、全学空連の役員が渡米するなど準備を進め、11月に日本武道館で開催された全日本大学空手道選手権大会に合わせて米国関係者が来日。調印式と交流試合が行われた。

調印式では、調印文書を交わした松倉栄重全学空連理事長とMHKHのヴァージリック・チロヤン監督が挨拶。その後、全学空連の代表選手とMHKHの選手が大会会場で女子団体形、女子団体組手の交流試合を行い、日米の絆を深めた。

○松倉栄重全学空連理事長

「この調印を契機にMHKHと全学空連がより一層交流を深めて同じ空手道を志す者として『心技体』の充実を図り、双方の連盟が今後さらに発展することに努力したいと思っています」

○ヴァージリック・チロヤン監督

「私は2014年に大会に参加するために初来日し、その時に人生が大きく変わりました。私が日本で体験したこと、得たことをボストンに帰

り他のメンバーにも伝えました。私の空手道の先生が語っていた『学生や若い方々に日本の伝統的な空手道の技と心を伝えたい』という思いを受け継ぎ、次の世代に伝えたいです。今後は空手道の精神に基づき全学空連との関係をさらに深めていきたいと思っています。いつか日本の皆さんもボストンへお越しいただき、空手道を通じて人間関係を深めていきたいです」



調印式に参加した全学空連役員とMHKHの関係者・選手たち



調印式終了後には全学空連の代表者との交流試合が行われた
（右：MHKHの形演武、左：MHKHの選手（右）が上段突きを決めた）